

MG archives

ジャパンミッション1906

宮城学院(前身は宮城女学校)と東北学院を創設し、仙台を本拠地に東北地方においてキリスト教の伝道にあたったドイツ改革派教会の1906(明治39)年当時の在日宣教師団ジャパンミッション。宮城女学校初代校長ブルボーの後を継いだモール、ズーフル、ミラー、ワイドナー、ファウストなど歴代の校長や教師、第一校舎の建築に当たったランペ、会津の使徒と仰がれたノッスなどの宣教師たちが揃っています。

(写真・文 宮城学院資料室)



「The Japan Mission 1906」

巻頭座談会

学内インターンシップ

学内インターンシップ 学生×宮城学院女子大学学長 吉崎泰博

05 シリーズ 思索の森の案内人たち

07 OG INTERVIEW 社会で活躍する卒業生たち

08 在学生の活躍を紹介! Students' Voice

MG Cafe

09 宮学生の特製オリジナル 私たちの健康レシピ

学友会 ニュースMGが行く!

10 Campus topics

Club サークル紹介

Making of partir メイキング オブ (パルティール)

MG フォトエッセイ

学内インターンシップ 学生×宮城学院女子大学学長 吉崎泰博

学内インターンシップ

学生が実際の就業体験を通して社会を知り、職業選択に生かすインターンシップ。宮城学院女子大学では、2009年9月に初の試みとして半年間の「学内インターンシップ」がスタートしました。

今回の座談会では、広報の仕事を経験しているインターンの皆さんにお話を伺いました。



吉崎学長(以下学長)皆さんは初の学内インターンに集まってくれました。応募した理由は？

橋川亜紀さん(以下橋川) ネットでインターンを募集している会社を探していましたが、興味のあるマス



「関係はなかなか見つかりませんでした。そんな時に募集を知り、広報の仕事なら同じ方面にかかわれるチャンスだと思いました。

早坂瞳さん(以下早坂) OGを招いて、旅行会社の商品企画についてお話を伺ったことがきっかけで、今回のインターンシップに興味を持ちました。広報の仕事を通して、社会勉強ができると思いました。

白子真里さん(以下白子) アルバイトや勉強だけでなく、人と違った体験がしたかったんです。広報に興味がありましたし、学内で長期間、インターンの体験ができるのは珍しいと思いました。

佐々木茜さん(以下佐々木) 子どものころか

らCMに出演するなど放送業界が身近にあり、興味がありました。広報の仕事でそうした企業の方など、多様な人とかかわりたいと思いました。学長 実際に仕事がスタートして、どのような感想を持っていますか？

白子 自分がやりたいと思っていたこととぴったりでした。これからイベントの企画などもしてみたいですね。

佐々木 テレビ局の方とお話する機会が何度かあつて満足しています。学業との両立が大変ですが、仕事はもっとたくさんしたい気持ちです。

橋川 初仕事に「交通情報マップ Bus de Smart」を仙台市や制作関連会社の方々や制作しました。CO₂削減のため、通学に公共交通機関の利用をすすめる仙台市との取り組みです。突然の大役でしたが、この経験を通して広報メンバーとしての責任感が生まれました。





学長 このバスマップは皆さんが作ったのですかね？

佐々木 マップは折りたたみ式で両面印刷をしています。持ち運びやすく、バスを利用する際に必要な情報をつまみ引き出せるように、使い勝手の良さをご配慮しました。どのような内容を掲載するか、利用者のニーズを学生の視点から仙台市の方々と話し合いました。

学長 「バス停やバスの中でできるエクササイズ」なんてユニークですね。自分用に書き込める時刻表も面白いです。

白子 それぞれの意見を出し合うため「会議」や「ディスカッション」ではなく「ワークショップ」という形式をとりました。社会人の方々と平等な位置に立たせて頂き、アイデアを積み重ねていく作業の「つひつひ」は、私たちにとってとても重要な体験でした。

学長 今、企業ではいかに新しいものを生み出す



相手の心と触れ合えるような仕事を

学長 卒業後の進路について、皆さんはどんな理想や夢を持っていますか？

白子 広報関係の仕事を希望しています。ゼミで宗教問題についてさまざまな文献を読み、知識が増えました。そのことを通して、知ること・知ってもらうことの重要性を学び、広報活動に魅力を感じました。

早坂 セミの先生の紹介で、アフリカを支援するボランティアしており、卒論もアフリカの問題について書く予定です。将来もさまざまな方に、国際協力について伝え、支援を拡大し

すか、考える能力が要求されてますね。頭を柔軟にして、いろいろな視点から提案ができるような訓練ができたのですね。

早坂 今回の制作を通して学生自線のアイデア意見からさらに挑戦し、戦略的な視点を学び理解できたと思います。今後はさらに多面から考え意見をいえるように、学校生活やインターンを通してさまざまな経験を積んでいきたいです。

もっと宮城学院を知ってもらうために

学長 宮城学院を広報するアイデアや提案はありますか？私はこちらに赴任したときキャンパスの中で白鳥が越冬するということに本当にびっくりしました。そんな自然の中の静かな環境にあるキャンパスの美しさをもっと知ってもらいたいと思っていますが…。

白子 ホームページで学校の様子を紹介している「キャンパスダイアリー」の原稿を作成するために、学内をよく散策しています。緑溢れるキャンパスはどこをとっても魅力的です。

橋川 芝生が気持ち良い中庭で、天気の良い日は友人とおしゃべりをしたり、ランチをしたりしています。学内で色々な楽しみ方があるというところを皆に知ってもらいたいです。

学長 そうですね。私は学長室からバードウォッチングを楽しんでいるんですよ笑。ほかに何かありますか？

早坂 新聞記者の方が宮城学院にいらした際に取材に立ち合い、「手話サークル」の話を聞き、もっと学生活動を外に伝えられたらと感じました。自慢できる活動がたくさんあるのに、ていきたいと思います。

橋川 宮城学院では高校時代から、社会と女性の生き方について考えなさいと言われてきました。家庭を持ち家族との時間を大切にしながら、自分のやりたい仕事に打ち込むのが理想です。

佐々木 中学生のころからの夢でアナウンサーになりたいと思っています。日本文学科で正しく美しい日本語を話せるようになることが当面の目標です。

学長 なるほど。不特定多数の人に語りかけるのだから、それぞれにさまざまな思いを持って人生を生きている人たちがいるということを忘れずに、心をもって心に語りかけること。せっかく日本文学科にいるのですから、文学を通して人間を学んでください。

宮城学院は、キリスト教に基づいて一人ひとりが生きていく心の豊かさを養うための教育をしています。広報だけでなく、どんな仕事でも相手の心と触れ合えるような仕事ができるといいですね。

まだインターンの期間がありますが、宮城学院が一番大切にしているものをしっかりと広報してください。

もしかしたら学外にそれほど知れ渡っていないのでは？もったいないとも思いました。

佐々木 メディアや「Q」を通して、宮城学院の良さをもっと伝えられるようにアイデアを出していけたらと思います。

学長 ところで皆さんが宮城学院を選んだのは、どんな「広報」がきっかけだったのでしょうか？

早坂 私の高校に大学の方が来て説明会を開いてくださいました。国際協力に興味があったので国際文化学科にひかれて入学しました。

白子 私は親と高校の先生にすすめられて。すぐ近くに住んでいるので、地元では宮城学院は伝統ある、しっかりした学校というイメージがありましたね。

橋川 私は高校から宮城学院に通っています。大学ではたくさん先輩方が教員免許を取って教師になっており、とても憧れました。

佐々木 始めにホームページを見て、日本文学科に興味をもち入学を考えるようになりました。

学長 ホームページを見てという人は多いんですよ。最近トップページが新しくなりましたが、印象はどうですか？

白子 宮城学院らしさがデザインで感じられ、きれいでわかりやすいと思います。今後どのように変化していくのか楽しみです。

学長 第一印象も良く、自分の見たいところが見られる便利さが大事ですよ。これからますますネットを利用した広報が増えると思いますが、人と人が目を見て笑顔で話すというアナログの強みというのも大事にしなければなりませんね。

「せんだいスマートデザイン賞」を受賞しました！



仙台市では公共交通を中心とした交通体系の構築をめざし「せんだいスマート」として、地下鉄やバスなど公共交通の利用促進に繋がるさまざまな取り組みを実施しています。そのせんだいスマートの取り組み内容を広く知ってもらうため、1月29日～2月3日まで「せんだいスマートウィーク」が開催されました。最終日には、在仙8大学の学生が中心となって作成した交通情報マップを発表する「せんだいスマートキャンパスセミナー」が開催され、学内インターンが制作した「交通情報マップBus de Smart」が最優秀賞の「せんだいスマートデザイン賞」を受賞しました。

PROFILE

宮城学院女子大学学長
吉崎 泰博
九州大学文学部卒業。
2002年北九州市立大学
学長、2005年4月より
本学学長。

座談会メンバー

白子 真里さん
人間文化学科3年
富谷高校出身

早坂 瞳さん
国際文化学科3年
尚絅学院高校出身

橋川 亜紀さん
日本文学科3年
宮城学院高校出身

佐々木 茜さん
日本文学科1年
東北高校出身

※学生の学年は2010年
3月現在のものです。

思索の森林の案内人たち

「学問する」ということは、新しい知識の世界を開く喜びに満ちています。学ぶことは、きつとこれからの人生に輝きを与えてくれるはず——。そんな世界を案内してくれる先生方に、「学びの姿勢」についてお話を伺いました。

音楽へ人生へ 表現者としてのアプローチとは

言葉という文化を音楽で表現

音楽作品の創作や演奏をはじめ、企画制作、出版、監修など国内外でさまざまな音楽活動を行っています。私のこの10年ほどの研究テーマは、「ミュージック&ドラム」。「言葉と音楽」のかわりを研究しています。これまで英語の詩を中心に研究してきましたが、日本の方言にも興味がありますね。言葉は「文化」だと思いますが、いろいろな文化を音楽的に表現しようと試みているところですね。

作曲家として独唱や合唱など言葉の付いた音楽を作曲することが多いです。また、ピアニス

トとしても、詩の解釈に重きが置かれる歌曲など音楽の伴奏者として演奏をしています。言葉と音楽の関係性について、実際に創作と演奏という二つの方法でアプローチしているのが私の特徴であり、個性だと思っています。

多角的な考え方が理解を深める

学生たちに伝えたいことは、柔軟に、多角的にものを見ることができると、または見ようとする姿勢の大切さ。応用制作実習では、学生たちは吹奏楽曲やCM曲など自由に創作しています。技術的なことも大事ですが、クリエイターとして対象をどう見るといふところから、ものをつくるとはどういうことなのかを考えてみる。ものの方には、たくさんルーツがあることを学んで欲しいと思っています。

また、芸術総合演習の中では今、「それ、必要？」というテーマで議論しています。例えば、「コンクール」は、本当に必要なのか。そう思う

のはどうしてか。学生同士、互いに意見を言い合います。関連する映画を見たりしながら、自分の体験、他人の体験を照らし合わせて、コンクールが持ついろいろな要素を理解していく。唯一の正解を出すためのものではなく、多角的に物事を見る目を養うものです。

しなやかにたくましく変化を楽しむ

人生においても物事は常に多面的で、光の当て方によって見え方は変わる。ふと視線を変えたときに見えてくるものもあります。

つまり自分の人生を紡ぎ出すのはあなた自身。何事も決めつけず、希望を持ち、変化を楽しみましょう。しなやかに優雅にたくましく生きていくことを願っています。先生と学生という立場ですが、たまたまこの大学で、人生のひと時に出会った生身の人間同士、私も学生たちと共に個性をぶつけあって変化し、成長していきたいと思っています。

作曲・声楽伴奏

音楽科

なかにしあかね教授



知識とスキルを磨き、共感する心を育てる

発達障害の正しい理解と支援をめざして

専門は臨床発達心理学です。最近の研究としては、発達障害や、病気を持つ子どもとその家族を対象に、実際の生活につながるような支援について研究をしています。

例えば現在行っている「発達障害の確率的アセスメント」という研究は、ADHD（注意欠陥・多動性障害）やLD（学習障害）、自閉症などが同時に発症している場合など、その子どもにどんな発達障害がどれくらい存在するかを数値で表すことにより、子どもの理解を深めようというものです。

子どもが発達障害だと分かったとき、親は「育児が間違っていたのではないか」と自分を責めてしまう人が多いし、実際にわが子への対応の仕方にも悩みます。一方、子ども自身は自分の言動を理解されず、叱られる存在としての自分しなくなってしまう。親をはじめ、発達障害の子どもに接する人が正しい知識を持ち、理解することで関係が良くなり、子どもがより良く育つ

環境を整えてあげることができると思います。

深く広く子どもを理解すること

保育者をめざす学生たちには、子どもに接する知識やスキルを学ぶだけでなく、子どもを理解する視点を深く、広く持つことが大事だと教えています。歴史的、文化的視点で現状をとらえ、社会、家族などそれぞれの子どもが育つ背景にも目配りする。さまざまな感情への配慮も含め、親の支援も大事な仕事なんです。

本学では、じっくり4年間かけてそつした学生の適性を育てていきますが、ボランティアなどの実体験をすることが、共感する心を養い自分の視野を広げてくれると思います。

保育者になってからも、3年経てば子どもたちや家族が抱える問題も答えも違ってくるので、常に学ぶ姿勢が一番大切です。

笑顔を忘れず、可能性を信じて

学生の皆さんは、一人ひとりを素晴らしい可能

臨床発達心理学

発達臨床学科

足立 智昭教授



PROFILE

教授 足立 智昭

福井県生まれ。教育学博士。1988年から宮城学院に勤務、短大保育科助教授を経て、2000年から大学発達臨床学科教授。この間、2期附属幼稚園の園長を兼務。大学以外では、病気の子どもと家族を支援するNPO「ワンダーポケット」に属し、学生、卒業生と一緒にボランティア活動を行っている。

MIYAGI GAKUIN
WOMEN'S UNIVERSITY

これを読んでほしい方へ——



● なかにし先生おすすめの本 ●



「なぜ、これがアートなの？」

アメリア・アレナス 著
福のり子 訳
淡交社 2,625円

ニューヨーク近代美術館で、長年美術館教育に携わっていた著者が、現代アートは苦手…という日本人のために書き下ろした。「現代アートのユニークな入門書ですが、脳のいろんな部分を刺激されて、読後はきつと頭が柔らかくなってますよ！」

● 足立先生おすすめの本 ●



「ミラクル・ツインズ！」

— 難病を乗り越えた双子の絆 —
イサベル&アナベル・ステンウェル 著
大貝 昌子 訳
岩波書店 2,100円

天逝必至といわれた肺囊胞繊維症(CF)を患いながらも、果敢に人生を生きる双子の姉妹の物語。著者のイサベル、アナベル 姉妹は、2009年10月に本学で行なわれたコンサートにゲスト出演し、このキャンパスに大きな感動を残しました。

社会で活躍する卒業生たち

O G I N T E R V I E W

自分の考えを持って
自分で動く姿勢

宮城学院で鍛えられました

株式会社 JTB東北 法人営業仙台支店
営業三課
赤間 聖美さん



— 宮城学院時代の思い出は？

宮城学院には中・高・大学と通いました。自分の考えをしっかりと持つことの大切さや、何でも自分たちで動き、取り組む姿勢を学びました。今の自分があるのもそんな校風のおかげ。精神的に強くなりましたね。

また、礼拝で教えて頂いた「神はその人が越えられない試験を与えることはない」という言葉は、辛いと感じたときなど、今でもいろいろな場面で支えになっています。

— 旅行業を選んだ理由は？

高校の修学旅行で世話役をした時、友人に「こういう仕事があっていいんじゃない？」といわれたのが印象的で、旅行業に就くことを意識して英文学科に進みました。旅行には、文化の違いなど「知らないことを知る楽しさ」が詰まっていると思うんです。大学時代に行ったイギリス語学研修で、そんな旅行の楽しさを広めたいという思いが強くなりました。手に取れない商品売る難しさはありますが、どつすれば相手の心をつかめるのか、信用第一の仕事に面白さを感じています。

— 宮城学院の後輩たちへのアドバイスは？

大学時代には思いっきり遊んで、思いっきり勉強すること。どちらも大事ですね。私自身は英語をもっともっと勉強しておけばよかったと反省しています。また、決まった友人と過ごしがちですが、いろいろな人に出会えるよう外に出かけて行ったほうが、いい経験をたくさん積めると思います。

赤間 聖美さん あきま せいみ 2004年 英文学科卒

2004年(株)JTB東北(仙台市青葉区大町)に入社、団体専門支店を経て、法人営業仙台支店勤務。長期休暇を取って旅行するのが楽しみ。「同僚はみんな旅行好き。一声掛けたらすぐ仲間が集まり、夏に富士登山をしました」

広く動く

私は生活文化学科(現・生活文化デザイン学科)に所属し、建築やデザインを専攻しています。授業では設計や設備などについて学んでいます。特に設計の授業は敷地を読み取り、それを活かした建物をいかに格好良く造るか、といったところに面白さを感じています。今までに住宅や美術館の設計を行い、それに基づいて模型も作りました。模型を作ってみると自分の考えた建物がリアルに感じられ、達成感を味わうことができます。

各大学から建築を学ぶ有志の学生が集まる「仙台建築都市学生会」という建築サークルがあります。私はそのサークルに所属し、卒業設計の出来を競う大会の運営をしています。卒業設計とは、建築を学んでいる学生の4年間の集大成であり、都市が抱える問題の克服を建築で表現するものです。大会ではそれを



齋藤 麻末さん

生活文化学科3年(現・生活文化デザイン学科)
宮城県第二女子(現・宮城県仙台二華)高校出身
仙台建築都市学生会 Award 局長

「建築」というと堅そうですが、デザインやインテリアについても学ぶことができます。将来は、快適な環境をつくるためにたくさんの人にアドバイスを提案ができるような仕事に就きたいです。

全国各地から募集し、著名な審査員の先生方に順位をつけていただきます。大きな大会なので大変なことも多いですが、とてもやりがいのある活動です。サークルの活動を通して他大学の友人と情報を交換したり、一緒に作業をするなどで活動範囲が広がると共に、建築の知識を深めることができます。「建築」と言っても性別や学校によって考え方はさまざまです。そういった意味で自ら多くの場に足を運ぶことが大切だと思います。



学外を知っているからこそ学内の良さを知り、自分の中に取り入れていくことができます。その逆も同じです。そして、さまざまな活動を通して、学生という立場はやる気と情熱を示せばたくさんの方が力を貸してくれるというところに気が付きました。恥をかいても、失敗しても許される期間だと考えています。現在3年生なので学生生活も残り半分を切つてしまいましたが、これからも多くのことに挑戦し美社会に出るまでの間に自分を大きく成長させたいと思います。

ボランティアを通じて

私は宮城学院に入学してから、常に真剣に取り組みることができる何かに出会いたいと考えていました。2年生の夏、大学の掲示板上に貼つてあったポスターがきっかけで、「SEND A I 光のベント」実行委員会(学生会)に所属することに決めました。



学生会は「仙台を盛り上げたい!」という学生たち有志が集まった部会です。仙台の大学生、専門学校生が、勾当台公園の野外音楽堂で行われる、学都×楽都「ラベレーション」というイベントを約1年かけて企画し、イベントの運営をします。企画会議でホワイトボードに向かい、学年を問わず真剣に議論する時間はとても新鮮で、街頭募金活動やイベントへの出演交渉など、さまざまな経験をしました。

3年生では幹事という役職を任せられ、これまでとは違い学生会をまとめ、自分たちで企画・運営する立場になりました。2年生の時より責任が重く胸が押しつぶされそうになった時もありましたが、仲間たちと真剣にイベントを作り上げてきた時間は、得るものが多く、かけがえないものになりました。また、忙しいボランティア活動の中で、支えになったのは大学の友達です。サークルでは映画部に所属し部長を務めましたが、学科・学年の枠を超えて集まるサークルのメンバーだからこそ刺激を受け、和気あいあいと過ごすことができました。学校・サークル、ボランティア、違ったフィールドを行き来することにより、それぞれの時間や出会いの大切さに気づくことができましたのだと思います。これからの毎日が私の大学生生活の宝になると信じ、今後活動に励みたいと思います。



遠山 羽純さん

国際文化学科3年 宮城県泉館山高校出身
SEND A I 光のベント実行委員会学生会 幹事

国際文化学科では、世界各国の人々の考え方や文化などを学ぶことができます。個性豊かな先生方の授業を受けたおかげで、私の視野は驚くほど広がりました。英語のコミュニケーションの授業では、知らない人に対しても積極的に話すというスキルが身に付き、恥ずかしがりやの私がボランティアなどでどんどん意見を言えるようになったのはこの学科のおかげです!

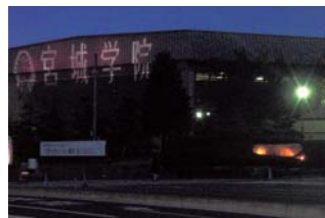
※学生の学年は2010年3月現在のものです。

Campus topics

■ 暗闇に光る“宮城学院”

皆さん、もうご覧になったでしょうか? なんと、体育館の道路側壁面に“宮城学院”のロゴと校章が!これは「ゴボクリップ」という機材によって映し出されたものです。「ゴボ」というのは内蔵されている文字盤のことで、はるばるイタリアから輸入されました。普通の看板だと一度作ってしまえばそう簡単に交換することはできませんが、これはゴボを入れ替えるだけでさまざまな文字やイメージを手軽に、しかも色鮮やかに映し出すことができます。

こういうオシャレな照明演出はイベントなどで使われることはありますが、学校の「看板」として使用しているところは全国広しと言えども宮城学院だけだそう。おかげでゴボクリップ設置以来、わざわざこれを見るために宮城学院前をゆっくり走る車が増えたとか…。いずれ仙台の新名所となる日もそう遠くないかもしれません。



■ 語り芝居と琵琶による「平家物語」

昨年11月12日、大学講堂において日本文学科特別企画「語り芝居と琵琶による『平家物語』」の公演が行われました。出演は俳優の岡橋和彦さん(劇団民藝)と琵琶奏者として活躍している岩佐鶴丈さんのお二人。今回の公演では「祇園精舎」にはじまり、俊寛の悲劇で有名な「足摺」、そして「福原落」から「敦盛最期」「那須与一」「壇ノ浦」など「平家物語」のハイライトシーンが原文のまま上演されました。舞台上で語られる言葉はもちろん古文ですが、たった一人の俳優によって登場人物が巧みに演じ分けられ、場面がくっきりと浮かびあがってきたのには驚きました。当日大学講堂に参集した400人を超える観衆は、鍛え上げられた岡橋さんの声と闇の底から響いてくるような岩佐さんの琵琶の音色に魅了され、「平家物語」の世界にぐいぐい引き込まれていきました。あらためて古典の底力を感じたひと時でした。



Club

サークル紹介

放送部

放送部は学内向けの「定時放送」、fmいすみ797の「キャンパスアワー」、ラジオ3の「カレッジステーション」などラジオ番組の制作をしています。また年に2回、在仙四大学と合同で音楽ランキング番組やラジオドラマの制作発表会があり脚本、キャスト、機材管理その全てを自分たちで行なっています。大変ですが皆で一つのものを作り上げる喜びを感じながら、楽しく活動しています。



アーチェリー部

私たちアーチェリー部は、毎週火曜日と木曜日の放課後に活動をしています。試合数も多く、自分の練習成果を発揮できる機会が沢山あり、他大学とも合同で大会や合宿などを行なっています。部員同士の仲が良く、一緒に練習をがんばって楽しんでいます。皆さんはアーチェリーにはあまり親しみがないかもしれませんが、的の中心に矢が的中したときの快感は、一度経験するとはまってしまいますよ!



メイキング オブ〈パーティール〉

— Making of partir —



宮城学院の魅力は「自然豊かなキャンパス」だと今回の巻頭座談会でもお話がありました。学内インターンの一人はキャンパス内から森への抜け道を見出し、湖や巨木、きのこなどさまざまなものを見つけることができたそうです。冬になればキャンパスは白鳥の飛来地となり、季節がめぐると遊歩道の両脇には四季折々の花が咲きます。暖かくなったらぜひ一度、ゆっくりキャンパスを散歩したいものです。

Recipe



宮学生の特製オリジナル 私たちの健康レシピ!

ピザといえば作るのが難しそうで面倒なイメージがありますが、今回ご紹介するレシピでは、簡単にクリスピータイプのピザが作れます。トッピングは基本的に何でも合いますが、生のミニトマトはぜひ入れてほしいです。焼くことによって甘みが増し、ジューシーでおいしいですよ。もしオープンがない場合はグリルにクッキングシートを敷き中火で、生地だけを1分間空焼きし、トッピングをのせて3分。おいしくできるのでぜひ作ってみてくださいね。

今回のレシピは…



食品栄養学科4年 亀田 真紀さん

野菜たっぷり簡単ヘルシーピザ



ピザ生地はこねたあとに30分以上寝かせると生地が落ち着き、扱いやすくなります。また、生地はサクサクとした食感に仕上げるためにできるだけ薄く伸ばしましょう。

材料 / (直径20cm 1枚分)

- 〈生地〉
- 強力粉……………100g
 - 塩……………2g
 - 水……………50g
- A
- オリーブオイル…大さじ1/2
- B
- 塩……………少々
 - 黒こしょう……………少々
 - オリーブオイル……………小さじ1

〈トッピング〉

お好きなものをどうぞ!
今回使用した材料
ピザ用チーズ、ミニトマト、しめじ、ラディッシュ、ペビーリーフ、ツナ、青じそ(千切り)、マヨネーズ

作り方

- ①Aをボールに入れ、箸でぐるぐる混ぜる。まとまってきたら3~5分間手でこね30分以上寝かせる。
- ②トッピングの準備をする。ツナは油をきり、青じそとマヨネーズで和える。その他は適当に切っておく。
- ③寝かせた生地を丸く伸ばす。伸びにくいので、両手で生地を持って少しずつひっぱりながら伸ばす。
- ④生地にミニトマト、しめじ、ピザ用チーズをのせ、Bをふり230℃に余熱したオーブンで10~12分焼く。
- ⑤②で和えたツナ、ペビーリーフ、ラディッシュを盛り付ける。

学友会 ニュースMGが行く!

Eyes on ASIA ~season2~

南アジアについて研究する国際文化学科 八木ゼミでは、2009年度の大学祭において、昨年に引き続きアジアの写真展を企画しました。“目で見て肌で感じるアジア”をテーマに、NPO法人ACEとの連動企画で、フェアトレードによる「しあわせへのチョコ」を販売しました。

フェアトレードとは、農作物などが発展途上国の生産者と買い手の双方に納得のいく価格で公正に取引される貿易のことです。今回は売り上げの半分が現地の団体に寄付され、児童労働をなくすための取り組みに充てられます。皆さんのご協力のおかげで、目標販売個数の100個を完売することができたそうです。この企画を通じて、少しでも世界の現実を知るいい機会となりました。

学友会ニュースMG編集部 青木 麻莉さん



※学生の学年は2010年3月現在のものです。